

Association between hydroxychloroquine concentrations and its efficacy and safety in Japanese patients with rheumatoid arthritis

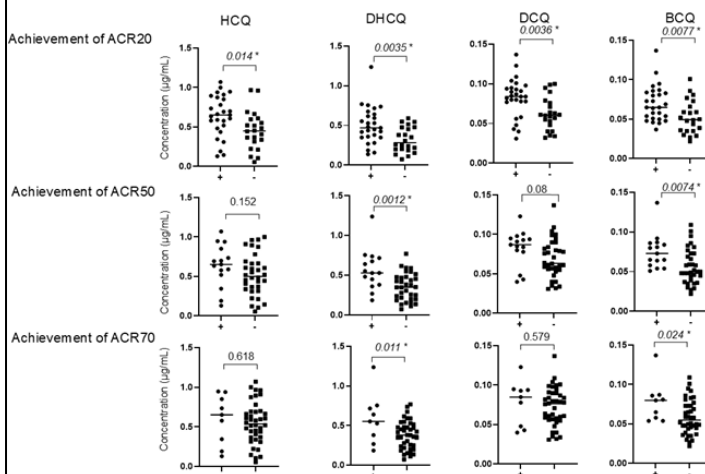
日本人関節リウマチ患者におけるヒドロキシクロロキンの血中濃度と有効性、安全性との関連

武井 裕史

我々は、以前ヒドロキシクロロキン(HCQ)の日本人関節リウマチ(RA)患者での有効性、安全性を初めて報告しました。今回はサブ解析として HCQ およびその代謝物(DHCQ, DCQ, BCQ)の血清中の濃度と有効性、安全性との関連について解析を行いました。その結果、HCQ 投与後 24 週時に ACR20 を達成した患者では、HCQ, DHCQ, DCQ, BCQ の血清中の濃度が非達成者に比べ高いことがわかりました。一方で ACR50, 70 の達成では DHCQ, BCQ の血清中の濃度のみ同様の関連が見られ、代謝物によって疾患活動性との関係性が異なることが示唆されました。安全性に関して、頻度の高かった感染症、消化器症状の発生と HCQ および代謝物の血清中の濃度との関係性は認められませんでした。海外では HCQ の血中濃度と RA の治療反応性の関係性が報告されていますが、本邦では初の報告となります。また、通常の全血の測定ではなく血清の濃度で信頼性がある結果が得られた点で意義深い研究と考えています。

<https://doi.org/10.1093/mr/roaf033>

日本人関節リウマチ患者におけるヒドロキシクロロキンの血中濃度と有効性、安全性との関連



・我々はヒドロキシクロロキン(HCQ)の日本人関節リウマチ(RA)患者での有効性、安全性を本邦で初めて報告した
→今回サブ解析としてHCQおよびその代謝物(DHCQ, DCQ, BCQ)の血清中の濃度と有効性、安全性との関連について解析した。

・HCQ投与後24週時にACR20を達成した患者では、HCQ, DHCQ, DCQ, BCQの血清中の濃度が非達成者に比べ高く、ACR50, 70の達成ではDHCQ, BCQの血清中の濃度のみ同様の関連が見られた

・頻度の高い有害事象であった感染症、消化器症状とこれらの濃度の関連を認めなかった

・日本人においてもHCQおよび代謝物の血中濃度がRAに対する有効性と関係性が認められた

Takei H, et al. Mod Rheumatol 2025;35(5):801-807, Figure 2